

交通事故発生状況（令和8年5月中）

交通事故の特徴

1 発生件数及び負傷者数は増加するも、死者数は減少

令和8年5月末の京都府内の交通事故発生状況は、発生件数1,568件（前年同期比+62件、+4.1%）、死者数14人（同比-5人、-26.3%）、負傷者数1,756人（同比+76人、+4.5%）です。

2 その他

交通事故死者14人のうち、6人が高齢者です。

亡くなられた方は、自動車乗車中1人、自二車乗車中4人、一般原付車乗車中1人、自転車乗用中が3人、歩行中等が5人となっています。

京都府内の発生状況

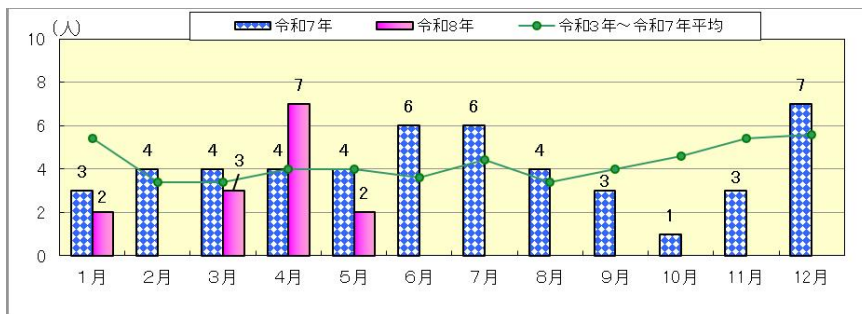
各年5月中

区分/年別	令和6年	令和7年	令和8年	前年同期比	
発生件数	344	268	334	66	24.6%
死者数	3	4	2	-2	-50.0%
負傷者数	401	303	383	80	26.4%

各年5月末

区分/年別	令和6年	令和7年	令和8年	前年同期比	
発生件数	1,619	1,506	1,568	62	4.1%
死者数	17	19	14	-5	-26.3%
負傷者数	1,864	1,680	1,756	76	4.5%

月別死者数



全国・近畿管区内の状況

全国の状況

令和8年5月末の全国の交通事故死者数は988人（前年同期比+6人、+0.6%）です。

神奈川県が61人で最も多く、次いで東京都の57人、愛知県の56人、兵庫県の53人、茨城県の48人の順となっており、京都府の14人は多い方から25番目です。

区分/年別	令和7年	令和8年	前年同期比
死者数	982	988	6 (0.6%)

順位	都道府県別	死者数	前年同期比
第1位	神奈川	61	2 (3.4%)
第2位	東京	57	3 (5.6%)
第3位	愛知	56	12 (27.3%)
第4位	兵庫	53	19 (55.9%)
第5位	茨城	48	11 (29.7%)
第25位	京都	14	-5 (-26.3%)

近畿管区内の状況

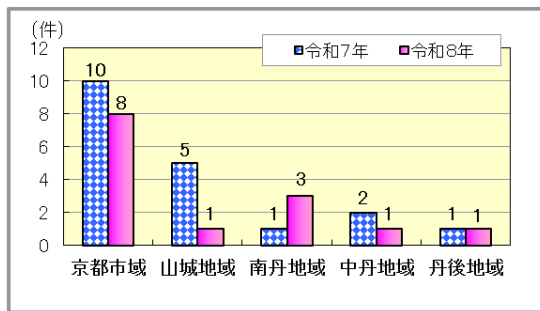
令和8年5月末の近畿管区内の交通事故死者数は、141人（－6人）です。

都道府県	死者数	前年同期比
近畿管区	141	-6 (-4.1 %)
府 別	滋賀	14 (-7 (-33.3 %))
	京都	14 (-5 (-26.3 %))
	大阪	38 (-12 (-24.0 %))
	兵庫	53 (19 (55.9 %))
	奈良	11 (2 (22.2 %))
	和歌山	11 (-3 (-21.4 %))

京都府内の死亡事故の特徴

発生地域別死亡事故件数

令和8年5月末現在、京都市域が8件、山城地域が1件、南丹地域が3件、中丹地域が1件、丹後地域が1件となっています。

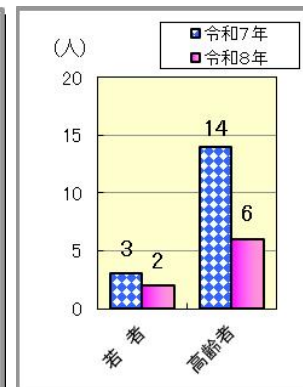
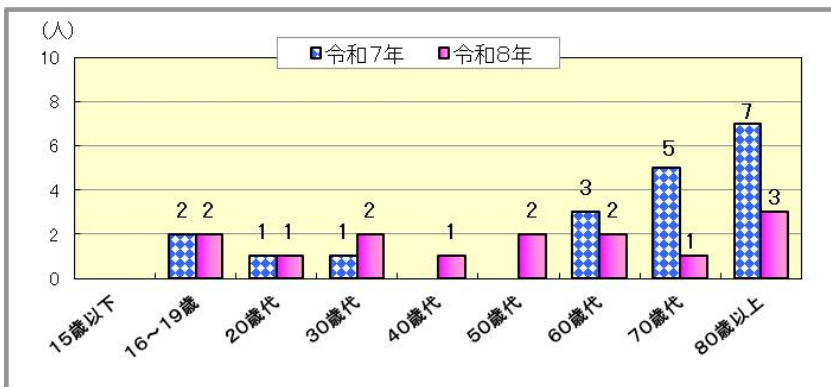


発生地域の内訳（令和8年5月末）

区分	市区町村
京都市域	左京区(2)、下京区(1)、右京区(1)、伏見区(1)、山科区(1)、西京区(2)
山城地域	城陽市(1)
南丹地域	亀岡市(1)、南丹市(2)
中丹地域	舞鶴市(1)
丹後地域	宮津市(1)

年齢層別死者数

高齢者の死者数は6人（前年同期比－8人）で、若者は2人（同比－1人）です。

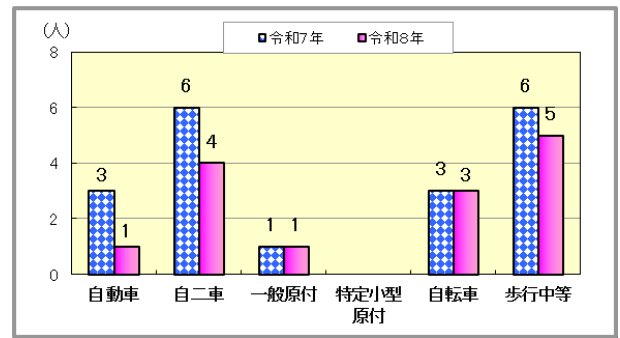


(注) 「高齢者」とは65歳以上の方をいいます。

「若者」とは、16歳から24歳の方をいいます。

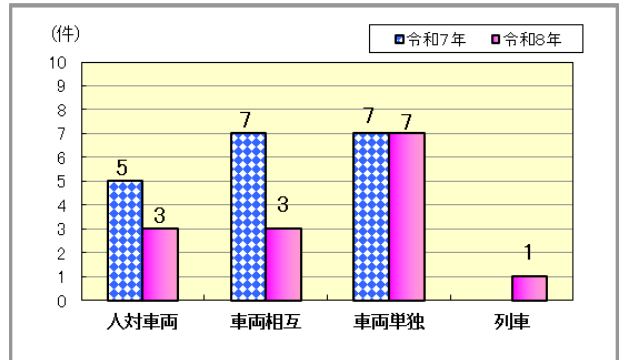
状態別死者数

自動車乗車中が1人、自動二輪車乗車中が4人、一般原付乗車中が1人、自転車乗用中が3人、歩行中等が5人となっています。

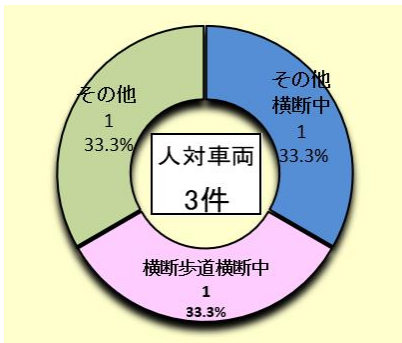


事故類型別死亡事故件数

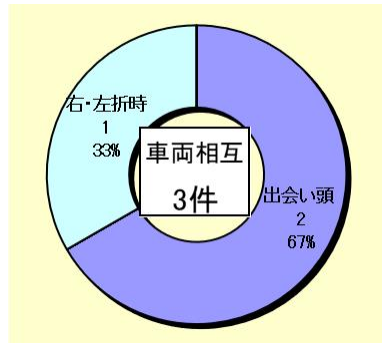
人対車両が3件、車両相互が3件、車両単独が7件、列車が1件となっています。



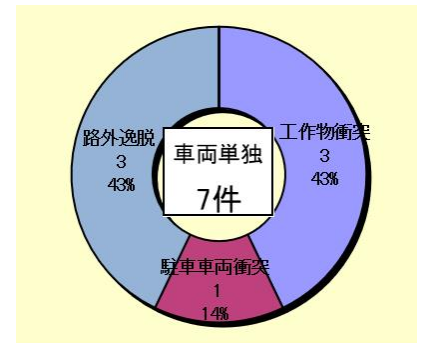
【人対車両事故の内訳】



【車両相互事故の内訳】

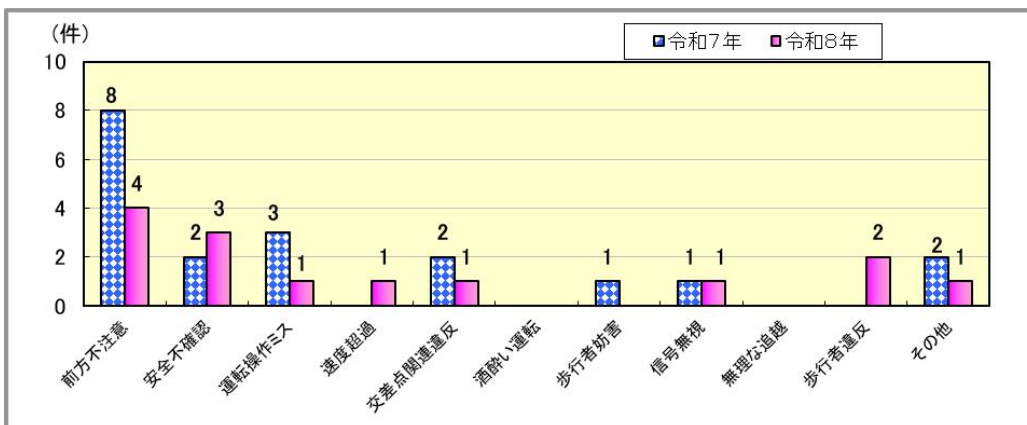


【車両単独事故の内訳】



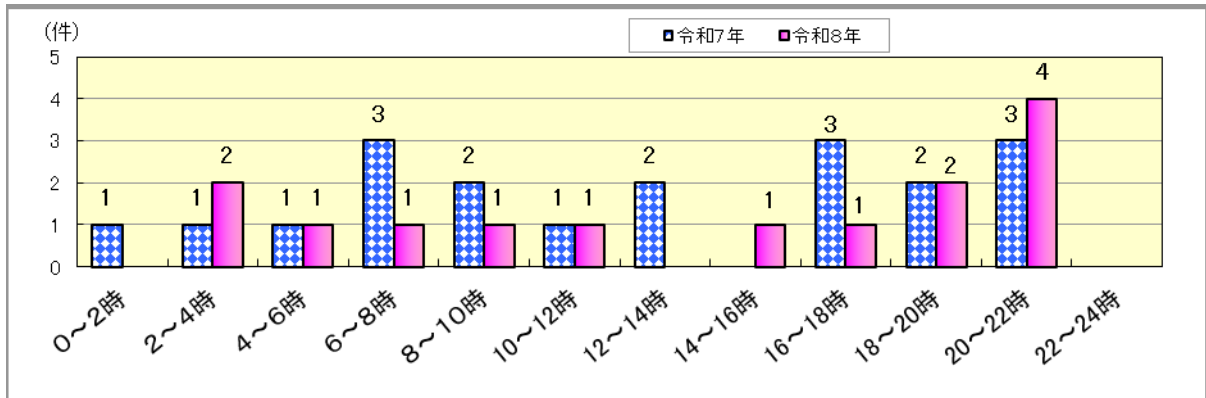
主な事故原因別（第1当事者）死亡事故件数

前方不注意が4件、安全不確認が3件、運転操作ミスが1件、速度超過が1件、交差点関連違反が1件、信号無視が1件、歩行者違反が2件、その他が1件となっています。



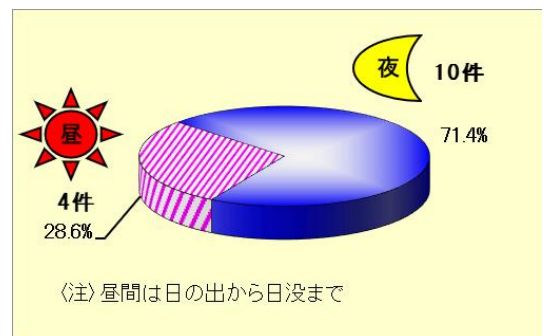
発生時間帯別死亡事故件数

20～22時に4件、2～4時、18～20時に各2件、4～6時、6～8時、8～10時、10～12時、14～16時、16～18時に各1件発生しています。



昼・夜間別死亡事故件数

死亡事故は、昼間に4件（前年同期比－5件）、夜間に10件（前年同期比±0件）発生しています。



シートベルト着用状況

自動車乗車中の死者は1人で、シートベルト着用中でした。



飲酒事故の状況

飲酒運転（第1当事者が原付以上の車両を運転し、酒酔い運転又は酒気帯び運転）による死亡事故は、本年は発生していません。

